2017年11月19日　　週報巻頭言

「ヨブ記を読んで」

ヨブ記にはいろいろなものが登場します。１章の冒頭から羊、らくだ、牛、ろば、サタン、シェバ人、牧童、羊飼い、カルデア人という具合です。２章では「皮には皮を」、皮膚病、テマン人、エリファズ、シュア人、ビルダド、ナアマ人、ツォファルと出てきます。
続いてレビヤタン、「人間とは何なのか」、北斗、オリオン、すばる、南の星座というように星の数々です。このように聖書を読むには調べなければならないことが沢山出てきます。

人種、名前の意味（エリファズ「“神は精金である”の意味」、ビルダド（おそらく“ベル（主）は愛したもう”の意味。聖書の名前にはほとんど意味が込められています)、天文、動物、植物というように多くのことに興味がわいてきます。聖書はたのしい読み物なのです。勿論、信仰者にとっては手放すことが出来ない大切な神の導き、救いの手引き、指針の「書」です。あなたの興味がある事柄からさらに深く聖書を日々読んで行きましょう。

（山下誠也）